

後援会だより

2010年度支部総会・父母懇談会総括



後援会会長

池邊 裕

(職/情報科学部)

記録づくめの猛暑となった今年の夏でしたが、8月29日(日)の岡山・

愛媛県両支部を最後に全国36支部の総会・父母懇談会が無事終了いたしました。これもひとえに増田壽男総長をはじめ、理事・学部長、そして多くの大学教職員の方々のご協力、ならびに支部長をはじめ支部役員の皆さまのひとかたならぬご尽力の賜物と、心より感謝申し上げます。景気後退による雇用情勢の悪化

で、大学新卒者の就職状況が非常に厳しくなっていることをきっかけに、就職はもちろん、教育の質に対しても、保護者の関心は学年を問わず高まっていると感じました。

参加された保護者の皆さまには、大学教職員とさまざまな意見交換ができたかと思いますが、後援会本部では、皆さまからいただいたご意見等も参考に、次年度もさらに充実した催しになるよう、大学関係者と話し合いを行いながら切磋琢磨していきたいと思っております。引き続き後援会活動へのご理解とご協力をお願いいたします。

長野県支部 「20周年記念行事の アンケート実施」



支部長

千野 勇

(拓也/経済学部)

衆議院議員選挙投票日の7月11日(日)、松本市の「ホテルブエナビスタ」において、長野県内の会員68家族96人、大学・後援会本部7人の大勢の参加をいただき、支部総会・父母懇談会を開催することができました。

渡辺宥泰GIS(グローバル教養)学部長から「法政大学のキャンパスライフ」の講演をいただき、「履修・学生生活・就職などの個別相談」では、30人の会員の皆さまが熱心に、指導相談を受けていました。また、情報交換会においては、長野県へのUターンOB2人の就職体験談を聞くことができ、たいへん有意義でした。さらに、8月の菅平高原におけるラグビーオープン戦応援への参加ならびに支部20周年記念行事のアンケート実施などの呼びかけも行いました。

今後は、さらに大勢の会員の皆さまが参加いただけるような企画や広報PRを検討していきたいと思っております。



秋田県支部 「就職個別相談に 相談が集中」



支部長

古木 智

(彰/社会学部)

7月18日(日)、秋田市のイヤタカにおいて支部総会・父母懇談会を開催しました。

当日は例年の約1.5倍の42家族57人と例年を上回る大勢の会員の出席のもと、大学、後援会本部からも5人の方々に出席をいただき盛会裡に開催することができました。

父母懇談会では花泉弘情報科学部長のご講演の後、懇談会、情報交換会を行いました。個別相談では就職関係に保護者の相談が集中しました。しかも就職関係の相談者の約8割が2年生の保護者で占められ、就職戦線の厳しさを反映してか保護者の子供の就職に対する関心も低学年化していることがうかがわれました。

父母懇談会終了後、校友連合会秋田県支部から酒井支部長をはじめ7人の校友の方々を来賓としてお迎えし懇親会を開催

しましたが、保護者の方による飛び入りの余興などもあり大いに盛り上った懇親会となりました。



青森県支部



郡山支部



広島県支部

山形県支部

「いつもとは趣の違う特別講演」



支部長

鈴木 すすき
高行 たかゆき
(真里奈 / 経営学部)

今年支部設立40周年の節目にあたり、いつもは県内在住の法政OBの方に特別講演をお願いしていたのですが、法政OBの私の畏友で東京生まれの東京育ち、NHK「プラタモリ」などで活躍中の法政大学工学部建築学科卒業で現在大学講師を務めておられる岡本哲志氏に特別講演をお願いしました。

いつもとは趣の違う「銀座の見た方・楽しみ方」というテーマでしたが、参加者の心を惹き付ける素晴らしい内容でした。大学時代から好きな学問をとことん続けてきた岡本氏の姿勢は、就職難の中、自分のやりたいことを見つけられない今の学生たちを持つ親たちにも一石を投じたようでした。

懇親会も岡本氏を囲みながら、大いに盛り上がり、最後は法政OBの役員が中心になってのメールと校歌で締めとなりました。



静岡支部

「心に残る素晴らしい総会と40周年記念行事」



支部長

どど 百々 佳宏
(恵 / 法学部)

7月25日(日)、ホテルセンチュリー静岡にて、支部総会・父母懇談会が開催されました。静岡支部は本年、設立40周年を迎えるにあたり、増田壽男総長の記念講演をいただくとともに、ニューオーレンヂスウィングオーケストラによるスウィングジャズの演奏会を実施いたしました。総会会場の隣室にステージを設置、総会の終了とともにお客さまは移動。そこで、総勢22人の学生ジャズバンドによる「ムーンライトセレナーデ」等のおなじみのスウィングジャズナンバーを披露。お客さまはライブの迫力ある演奏を堪能されました。続いての懇親会は地元の校友連合会各支部の責任者も参加いただいたのにぎやかなものとなりました。締めは応援団副団長のリードのもと、参加者全員肩を組んでの校歌斉唱で一気にヒートアップ。最後はお決まりのメールでピシッと決まりました。間違

いなく、参加された方の心に残る素晴らしい総会と40周年記念行事となったと思えます。



宮城県支部

「支部創立20周年」



支部長

松坂 まつさか 信行
(菜未 / 文学部)

東北でも記録的な猛暑が続いたこの夏。7月25日(日)、櫻の緑輝く青葉通り沿い、仙台エクセルホテル東急にて「支部総会・父母懇談会・20周年記念式典」を開催しました。大学より星野勉常務理事のご講演、大学情報・説明会があり、並行して個別相談も行われ、どの学年の会員にも大変充実した時間となりました。

周年行事では初代支部長・谷地館忠雄様へ感謝状を贈呈。また特別記念講演として野球部監督・金光興二様にお越しいただき「東京六大学野球から見た当世法政大学生気質」の演題でお話をいただきました。感情の起伏が激しい子が多いこと、褒めるとしかる加減など、面白く濃い内容に一同惹きこまれ、聴き入りしました。懇親パーティーでは校歌と力強い



宮城県支部

「多くの個別相談にも対応」



支部長

玉田 たまた 賢二
(高裕 / 経済学部)

宮崎では家畜の伝染病口蹄疫の発生が確認されて約3カ月が経ちました。全国の皆さまご支援ありがとうございます。ようやく7月27日(火)の非常事態宣言の解除があり、ほっとした中で7月31日(土)宮崎観光ホテルにて支部総会・父母懇談会を開催しました。総会員数66人中29家族38人のご父母の出席があり、大学・後援会本部の出席者より、進級・卒業・学生生活のアドバイス、就職の現状と取り組み等詳しく説明され、それを真剣に熱心に聞いている子どもを思う親の姿がそこにはありました。また個別相談においては、今年開始時間を5分早めたことにより、数多くの相談に対応していただきました。懇親会では、例年校友連

合会の気合いの入った指揮のもとで、「子供の母校は我が母校」を合言葉に、校歌斉唱を行います。スクラムを組みながら一番盛り上がった瞬間でした。より以上の一体感を感じた機会は無事終了しました。



大分県支部

「支部設立

10周年事業について」



支部長
渡邊 俊樹
(研一／経営学部)

当大分県支部は、今年で設立10周年を迎えました。そこで、この度の支部総会では、元法政大学教授で現島根県立大学副学長の飯田泰三氏を講師にお招きし、「支部設立10周年記念特別講演」を実施しました。

法政大学の設立に貢献した金丸鐵や伊藤修が大分県の出身であることはご存じの方も多いと思いますが、後援会の始まりの機縁となった「法政大学父兄会」を開催した野上豊一郎総長も本県の出身です。「法政大学史における大分」と題した講演では、法政大学と本県の深い人的つながりについてお話しいただき、あらためて法政大学を身近に感じる機会となりました。

また、今泉

繁喜氏をはじめ歴代支部

長・役員にも

ご加勢いただき、記念誌の

作成や法政グ

ッズの販売な

ど、例年以上

の盛大な総会

となりました。

山口県支部

「大学のさらなる

向上のために」



支部長
岡田 則夫
(華人／社会学部)

山口県支部は、首都圏、大都市を控えた支部と違って会員数自体が非常に少なく、その為、支部組織運営に非常に苦慮しているところがございます。参加者が少ない分だけ常連の顔ぶれになって和気あいあいとしたところもあるわけですが、そういった中、去る8月7日(土)に恒例の総会・父母懇談会を開催いたしました。出席者会員は14人程度でしたが、

大学側からは榎本勝己理事のお話、履修説明、就職説明など、参加したものとっては中身のある会だったと思います。この後援会組織は聞くところによると64年前からありその実績は他大学はるか及ばないものであり、大学に入ってからまで親が出るのかという考え方もありませんが、大学と保護者が一体となってこういった地道な活動が大学のさらなる向上に結び付くものと信じております。

高知県支部

「次年度への課題」



支部長
岩田 護
(啓蒙／デザイン工学部)

第7回高知県支部総会・父母懇談会を、8月21日(土)に開催しました。ご出席をいただきました大学関係者や後援会本部の方々にお礼を申し上げます。

まだまだ歴史も浅く、規模も小さな支部ですが特徴的な部分について報告しますと、現下の経済状況から厳しい就職活動に参加者の関心が集まったように思います。キャリアセンター課長から、親として学生に対する精神的支援のあり方や経済的支援、注意点などについて説明があった後、本年度初めて高知県の雇用労働政策の担当者からUターン就職情報に関する説明を受けました。優秀な人材を県内に呼び戻したいとの知事の強い思いも伝わり、参考になったのではないかと思います。

なお、後援会本部から出席の池邊

会長のあいさつの中で、後援会活動の分かりやすいご説明もありましたが、

出席者の少なかつた

1年生父母に支部総

会・父母懇談会の目

的や内容が十分伝わ

っていたのかどうか、

案内のあり方など

を精査して、次年度以降の課題として

熊本県支部

「遠隔地保護者の

切なる思い」



支部長
馬原 隆
(孝幸／キャリアデザイン学部)

8月22日(日)に行われたました熊本県支部総会では、遠隔地がゆえの子供の安否確認方法についての論議に終始しました。

「10日ほど娘と連絡が取れなかったことがあり、最終的に上京して安否を確認しました」。こういったケースを防ぐためにはどういった方法がありますか?との質問がありました。これに対し、保護者からは「友人の携帯を聞いておく」「病気の時は各キャンパスに診療所があり、気軽に利用できる」などの意見がでました。大学サイドからは「大学にも緊急の場合には対応する部署がありません」との回答がありました。

「便りが無いのは元氣な便り」とは

言い切れない物騒な世の中では、

さまざまケース

が想定されます。

このような場合の

大学への相談先な

だければありがたいです。

遠隔地の

保護者ならではの切なる思いであります。



「常任参与・参与と後援会運営委員との懇談会」報告



後援会副会長
久保田 寿男
(未佳現代福祉学部)

7月1日(木)、この懇談会では、毎年、後援会からの学生支援費についての予算執行状況や次年度予算について話し合いをしていますが、今年度は、次の大学の近況などについてもお話を伺いました。

1. 学生の就職状況などについて

7月1日現在の内定状況は、サンブル調査の結果、昨年と同程度の60%くらいで厳しい状況であり、対策として、後援会の助成で一時的に雇用しているキャリアアドバイザーの3カ月間の個別相談人数は延べ1600人余りの利用者があり、就職活動の学生に大いに貢献したそうです。

2. カルト集団について

カルト集団の勧誘の手法が年々巧妙になってきており、学生センターと総務部で共同して7月から、勧誘の多い土曜日に校内巡回体制を強化する予定で、発見した際は即時退去を命じているとの事です。

3. 後援会奨学金について

後援会では、貸与型奨学金が理想と考えていますが、大学としては、貸与型は回収の問題があり給付型の奨学金として規定の見直しをしたいとして、引き続き検討することになっています。

4. 後援会賞の対象について

難関試験と言われる、合格率10%以下の試験の合格を基準とする方向で検討しており2011年4月から施行を予定している。

以上の他、来年度の学生支援費について今後さらに継続的な協議をお願いし、短時間ながら、充実した懇談会でした。また懇談会を通じて法政大学は学生達の為に日々奮闘されていることを知り、同時に法政大学後援会の役割の大きさと責任を感じた貴重な時間でした。

大型バスが多摩キャンパスに寄贈されました!



後援会総務
笠原 和子
(ゆかり/法学部)

後援会より寄贈された大型バスが多摩キャンパスに7月6日、納車されました。後援会では学生支援事業の中で、キャンパス環境の充実に向けて、大学側と話し合いを重ね、今年度は多摩キャンパスの広大な構内の移動が簡便になるよう、大型バスの寄贈となりました。多くの学生、大学関係者の方々に利用していただき、お役に立てていただきたいと思います。

そして秋の首都圏父母懇談会の際には、多摩キャンパス内の見学バスツアーにも使用させて頂く予定です。バスツアーにより多くのご

父母の皆さまに多摩キャンパスの素晴らしい姿を体感していただき、後援会活動にもご理解を深めていただけたらと思います。今後とも、学生、大学のため、支援活動を続けてまいりますので、ご理解とご協力をお願い致します。



後援会ホームページのご案内

URL : <http://www.hosei-koenkai.org/>

また、法政大学のホームページを開いていたとき、オレンジのインデックスの「保護者の方」をクリックしていただいてもアクセスできます。是非一度ご覧になってみてください。

「携帯メール情報」の配信案内

koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。六大学野球、甲子園ポウル(アメフト)や箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人一人の力は小さくても、一致団結して盛り上げて行きましょう。配信ご希望の方は、上記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。